

2018 年度 小委員会活動成果報告

(2019 年 1 月 18 日作成)

小委員会名	社会と環境心理小委員会		主 査 名：宗方 淳 就任年月：2017 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学委員会 (環境心理生理運営委員会)		委員長名：岩田 利枝 主 査 名：西名 大作
設 置 期 間	2015 年 4 月 ～ 2019 年 3 月		
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>エネルギー削減や少子高齢化、災害対策、安心安全、健康、産業の効率化等の現代社会を取り巻く無数の課題に対して、物理環境や構築された環境に対する人間の知覚・認知・行動・価値を扱う環境心理研究分野の成果がどのように適用や貢献しえるかという点に焦点を当て、当分野の研究成果の社会貢献・適用のあり方を整理する</p> <p>初年度： 1) 全体フレームワークについての検討 2) 設置する WG についての検討</p> <p>2 年度～3 年度： 1) 分類された課題ごとの検討 2) 研究会の実施</p> <p>4 年度： 1) 成果の整理、総括</p>		
委員構成 (委員名 (所属))	<p>委員公募の有無：なし</p> <p>主査：宗方淳 (千葉大学) 幹事：佐野奈緒子 (東京電機大学) 委員：大井尚行 (九州大学)、川井敬二 (熊本大学)、伊丹弘美 (早稲田大学)、松原斎樹 (京都府立大学)、宮本征一 (摂南大学)、加藤未佳 (日本大学)、兼子朋也 (関東学院大学)、讃井純一郎 (関東学院大学)</p>		
設置 WG (WG 名：目的)			
2018 年度予算	126,000 円	ホームページ公開の有無： 委員会 HP アドレス：	

項 目	自己評価
委員会開催数	3 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会 承認企画	
大会研究集会	
対外的意見表明・パ ブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得ら れた成果との関係)	<p>当初設定した活動計画に対して以下の内容からなる十分な成果を得た。</p> <p>1. 都市地域住民と国道沿線企業による緑化活動、温熱環境と居住者の健康、光環境に関する今日の課題、という多様なテーマを取り上げたミニ研究会を実施し、それぞれの社会貢献や運用のあり方を議論できた。</p>
委員会活動の問題点 ・ 課題	<p>1. 事例紹介をする講演者の確保が委員の知人に制約されおり、テーマの幅や議論に参加する参加者の広がり限界があること。</p>

2018 年度 小委員会活動 自己評価

(最終年度評価)

総合評価 (4段階評価)	A
総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)	<p>当初設定した活動計画に対して以下の内容からなる十分な成果を得ており、80%の達成度と判断した。各回とも、ミニ研究会として小委員会委員以外の参加も認めており、毎回数名の委員外参加者もいた。近年、建築学会大会における環境心理分野での発表数が増加する傾向にあり、2018年度大会では過去最大の発表数となった。これは、環境心理研究的な観点で社会と建築の関係を論じるテーマの広がりへの反映と考えられ、本小委員会で議論したテーマも相応に広いものとなった。一方で、運営委員会や環境心理研究者のメーリングリストでの告知に限られたため、委員以外の参加者の裾野の広がり方には限界があった。この点に関して、本小委員会の設置目的を達成するための幅広い議論や知見の収集という点が達成度のマイナス分として判断した。</p> <p>設置期間内に議論の対象としたテーマは以下の一覧となる：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 認知的なアプローチによる温熱環境 ・ サウンドスケープ ・ 幼児の環境評価 ・ 駅舎の音環境 ・ 防災防犯教育の場 ・ エスノグラフィーによる環境設計 ・ 地域の沿道緑化と住民活動 ・ 住宅の温熱環境と健康 ・ 住環境ストレス ・ 明るさ感評価の展開 ・ 商業施設の環境評価 ・ 住生活における愛着 ・ 脱炭素社会に対する人々の態度と意識 ・ 照明の動的変動に対する知覚と認知

- 総合評価は4段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
 - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
 - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から80%の達成度
 - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から70%の達成度
 - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価（シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など）に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。